

水産の窓

令和4年冬春季(3~5月)の沿岸漁海況予報

1. 令和4年冬春季(3~5月)の海況予測

(1) 海況の概要(2月)

調査船「いばらき丸」で2月上旬(7~9日)に実施した海洋観測の結果、本県海域は黒潮系の暖水に覆われているものの前月よりも降温しました。平年と比べると全域で「平年並~やや高め」の水温環境となっていました。また、大洗定線の141° 15'E~141° 45'Eの範囲では逆潮(南向きの潮)が観測されました。

図1は2月22日におけるNOAA人工衛星水温画像です。黒潮からの暖水波及は一時的に弱くなりましたが、暖水はそのまま本県沖に残っています。一方で、福島県沖まで親潮系の冷水が南下しています。本県海域の水温は9~18℃となっています。

1月および2月の海況を暖水、中間、冷水パターンに分類すると、1月は「暖水パターン」、2月は「中間パターン」となりました(図2)。

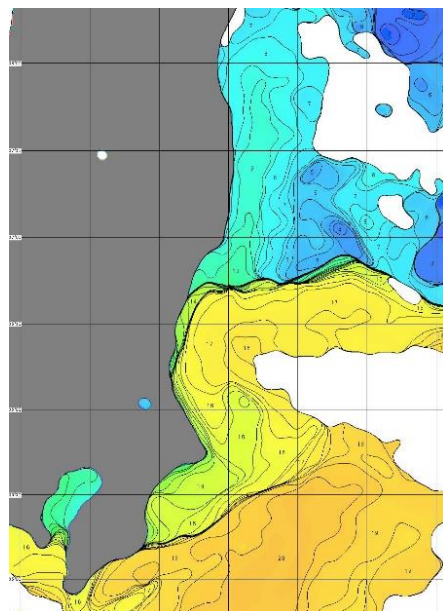


図1 NOAA人工衛星画像
(令和4年2月22日)

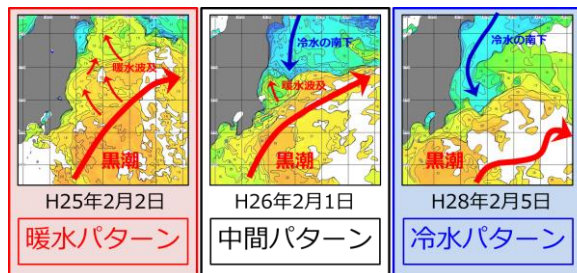


図2 各海況パターンの模式図

(2) 海況の見通し(3~5月)

予測のための根拠

○沿岸域では黒潮からの暖かい水が波及しています。

○福島県沖まで親潮第1分枝が南下しています。

○海況パターンから、3月は一時的に水温が低下するものの、4月以降は徐々に上昇する可能性があります。

以上より、冬春季(3~5月)の海況は「平年並~やや高め」で推移しますが、親潮第1分枝が本県沖まで南下した際には3月頃に一時的に「低め」となる可能性があります。

2. 令和4年冬春期(3~5月)の船びき網漁況予測

(1) シラス：3~5月は低調。6~7月から盛漁期となる。

近年、本県海域のカタクチイワシ※の春の産卵盛期は4~5月で、その1~2カ月後の6~7月から盛漁期となる傾向があります(図3)。

そのため、今年も3~5月は低調で、6~7月から盛漁期となる可能性が高いと考えられます。

4~5月の海況はシラスの生息に適した暖かい海況になると予測しておりますが、シラスが獲れたす6~7月の海況は現時点で予測できません。

今後、産卵状況や海況を調査し、改めて5月以降の予測を発表します。

※本県で獲れるシラスのほとんどは、カタクチイワシ(セグロ)の稚魚です。

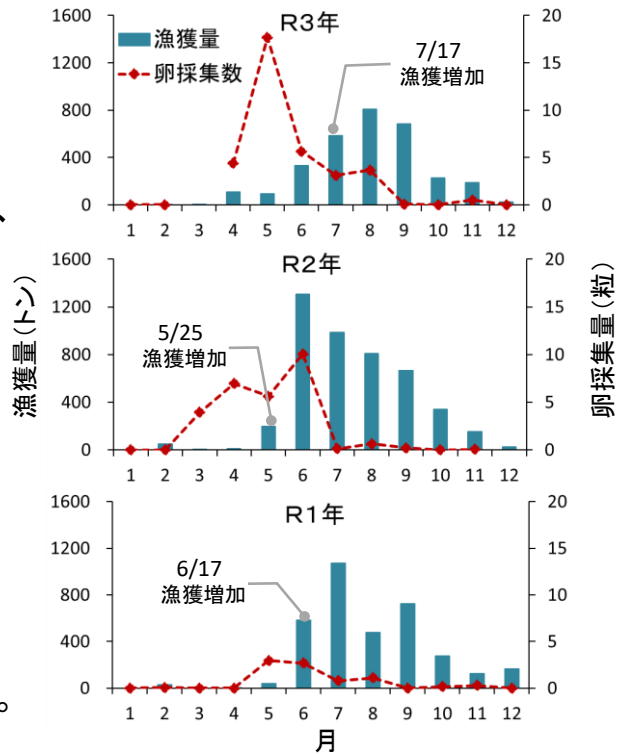


図3 シラス漁獲量と卵採集量の推移

(卵採集量:カタクチイワシ卵犬吠埼~会瀬沖1地点あたり平均採集数:粒/網)

(2) コウナゴ：来遊は期待できない

本県で漁獲されるコウナゴは、仙台湾からの来遊群が主体と考えています。今年1~2月中旬の宮城県、福島県でのコウナゴ調査の採集量は近年同様、ごくわずかであったことから、今後の来遊は期待できないと考えられます。

(3) オキアミ：3~4月に来遊の可能性

現在、オキアミの生息・来遊に適した5~10℃の親潮系冷水が福島県沖にあり、今後3月頃に一時的に本県沖まで南下する可能性があります。

(回遊性資源部 高橋佑太郎)

[次回予告] R4. 3. 11発行の「水産の窓」は「3月海洋観測結果」を予定しています。